

聖母マリアの被昇天 (ルカ 1:39-56)

わたしの魂は主をあがめます



人間はとても自分勝手に、聖母マリアの被昇天のお祝いそれ自体は嬉しいお祝いと思っていますが、翌日は年間第 20 主日で、それはそれであらためてミサに行かないといけないし、司祭はあらためて説教を用意しないといけない。あーきついなあ、あー暑いなあと思ってしまいます。こんなことでは、とても天に上げられた聖母マリアに近づくことはできませんね。

今年の聖母マリアの被昇天に、こんなことを考えてみました。聖母マリアは、救い主である神を喜びたたえる歌（賛歌）を唱えました。私たちに、救い主である神を喜びたたえる賛歌を唱えることはできないでしょうか？このことを考えてみたいと思いました。

私だったら、救い主である神をどのようにたたえますか、ということです。今日と明日、「救い主への私の賛歌」を唱えてみてはいかがでしょうか。考えてみてはいかがでしょうか。

いきなり唱えてください、考えてくださいと言われても無理でしょうから、マリア様自身からヒントをもらいましょう。一つ目は、「なぜ、喜びたたえる気持ちが湧いてくるのか」です。マリア様ははっきりと、「身分の低い、この主のはしためにも、目を留めてくださったからです」（1・48）と言っています。私にも、何か「救い主を喜びたたえる理由」があれば、一つ目の問いはクリアですね。

二つ目は、「神様を、何と言ってたたえますか」ということです。マリア様は、「その御名は尊く」「その憐れみは代々に限りなく」私たちにも、これまで生かされてきた中で、「どのように言ってたたえるべきお方だろうか」は何かあるはずです。それを、素直に心に思い浮かべましょう。

三つ目は、「一人ひとりに、どのように接してくださるお方か」を考える必要があります。マリア様は、「思い上がる人に対する接し方」「権力ある者への接し方」「身分の低い者への接し方」「飢えた人への接し方」「富める者への接し方」などを賛歌の中に織り込んでいます。いろんな人への接し方は思い浮かばなくとも、人生の中で神様がわたしにどのように接してくれたかを思い出して、賛美することはできますね。

他にもあるでしょうけど、暑い最中で、三つ以上は頭に残らないでしょう。これらを交えて、「私にとっての、救い主を喜びたたえる賛歌」を神様にささげてほしいです。とくに、私が「夏休みに神様とつながって夏休みを過ごしてください。頑張った人にはご褒美を用意しますよ」と約束した小学生。マリア様にならって、たとえば「ぼくのわたしの子ども賛歌」を夏休み中に書いて二学期に見せてください。楽しみに待っています。

最後に、中田神父は「救い主を喜びたたえる賛歌」は、「愛されて

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

いる人のためだけの賛歌」ではない、と考えています。「愛されている人」も、「愛されていない人」も、漏れなく「救い主をたたえる賛歌」の中に織り込んでこそ、「マリアの賛歌」に近づけると思っています。

「愛されている人」はたくさんいるでしょう。しかし「愛されていない人」さえも漏れることなく賛歌に織り込んだ。マリア様のような賛歌を、特に司祭である中田神父は、今日明日、唱えるよう努力したいと思います。もっと簡単に言うと、愛である神様の中に、すべての人を織り込む「賛歌」を、生き方で、祈りの中で、ささげる。それが司祭の努めだと考えます。

年間第 20 主日(マタイ 15:21-28)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。